

第4回 あかし教育懇話会 議事録

日時 : 平成24年10月10日(水) 16:00~18:00

場所 : 明石市役所分庁舎5階 教育委員会室

出席委員 : 12名

配布資料 : 「よりよい明石の教育に向けて」【あかし教育懇話会 第4回会議資料】
「読み・書き・計算ドリル(明石版ドリル)活用状況調査結果集計」
「科学の甲子園 概要」

◎ : 座長 ○ : 委員 ● : 事務局

1. 開会

●事務局

定刻になりましたので、あかし教育懇話会第4回目の会議を開催いたします。
それでは、座長よろしくお願ひいたします。

2. 議事

①前回会議より

◎座長

皆様、大変お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。

前回は、学力向上について、改めてどのようなことが必要かについてご意見をいただきました。特に基礎力の定着、それによる応用力、学習意欲、学習習慣の4つが学力向上の大事な要素であることを確認しました。そのうえで皆様からは、少人数授業のより一層の推進や、習熟度別授業の拡大などの取組を進めるべきではないかというご意見が出されました。今後の施策展開に向けて、明石市の子どもたちの学力を把握するために一般的なデータが必要ではないかということ、少人数学習をより積極的に進めていくためには、学習環境のハード面、ソフト面の整備も大事というご意見もありました。学力テストは行なうべきというご意見がありましたが、実現に向けては課題もあるため、もう少し検討が必要だということになりました。

本日は前半で、学力向上についてもう少しご意見をいただくと共に、学力テストについてもご意見をいただきたいと思ひます。後半は学習環境の整備について、少子化が進む中で、長期的に学校規模の問題、施設整備の問題について考える必要があるため、本日は、現状把握を行ひながら意見交換できたらと思ひます。

それでは、事務局から資料の説明をお願いします。

●事務局

「よりよい明石の教育に向けて」【あかし教育懇話会 第4回会議資料】の1頁をご覧ください。まずは、前回会議の確認事項について、簡単にご説明します。

前回、学力向上について、まずは学力の定義の確認から始め、明石においてどのような学力に取り組むべきかについてご意見をいただきました。主な意見として、少人数授

業や習熟度別学習は効果があるため、小学校にも拡充してはどうかということがありました。また、地域の力を活用した放課後学習などができないかというご意見もありました。スポーツの大会に匹敵するような、「科学の甲子園」などの勉強についての催しによって学習意欲が高められないか、また、スピーチ力を付けることで「言葉の力」を育てていくことも必要だというご意見もありました。

学力テストは、現在の子どもの状況を的確に把握し、的確な目標を設定して学習意欲を高める効果があることから、明石独自で学力テストを実施することを委員の皆様の総意として確認しましたが、具体的な実施方法については、本日もう少しご意見をいただきたいと思えます。

一方、学力向上のためには、学習に集中できる環境が非常に大事ということから、学習環境の整備の前提となる学校規模適正化について、資料を準備していますので、後ほどご意見をいただきたいと思えます。

続いて、前回宿題となっていました「読み・書き・計算ドリル（明石版ドリル）活用状況調査結果集計」、「おの検定について」、「科学の甲子園 概要」についてご説明します。

まず、「読み・書き・計算ドリル（明石版ドリル）活用状況調査結果集計」についてです。漢字ドリルは小学校1年生から中学校3年生、計算ドリルは小学校1年生から6年生までを対象にしており、平成21年10月から各小中学校に配布しています。教員が問題をプリントアウトして子どもたちに配って使用するもので、主に朝の学習時間で活用しています。実際の活用状況は、小学校28校のうち6校、中学校13校のうち1校です。資料の「3 活用していない理由」を見ると、「教科書に準拠したドリルを使用している」が多数となっています。このように実際に明石版ドリルがあまり活用されていないという結果から、市の教育委員会で、今後の明石版ドリルのあり方、活用方法、改訂版について検討したいと考えています。

次に「おの検定について」についてご説明します。導入の主たる目的は、小野市独自の学習面における小中一貫教育として実施することで、基礎学力の育成、自学自習の習慣化、チャレンジ精神の育成を狙うものです。その効果として、基礎学力の定着、家庭学習の習慣化、小中連携教育の進展が挙げられています。

次に「科学の甲子園 概要」についてご説明します。現在は、「科学の甲子園」の他、「数学甲子園」も実施されています。いずれも全国的に、都道府県の代表による団体戦で開催されるもので、各都道府県で予選が行なわれています。しかし、市独自で取り組んでいる例はありません。

◎座長

先ほどの説明について、ご質問、ご意見はありませんか。協議の中でご意見等が出てきましたら、そのときにお聞かせいただきたいと思えます。

では、前回の会議の続きとして、学力向上についてもう少しご意見をいただきたいと思えます。例えば、前回出された少人数授業や習熟度別学習は、学習方法や指導のやり方に関わるもので、教育委員会として今後検討していくものですが、地域ぐるみで取り組むものとしてご意見をいただければありがたいと思えます。思いつきでも構いません

ので、よろしく願いいたします。

○委員

学力テストの実施で、学校の負担も増えると思いますので、できるだけ地域でできることは地域で、家庭でできることは家庭でフォローできればよいと思います。

◎座長

子どもの学習意欲や、家庭での学習習慣の向上に向けて、地域でできることについて、ご意見はありませんか。

○委員

家庭にもいろいろあるため、地域や家庭でサポートするにも限界があると思います。やはり学校教育の現場が牽引することが必要だと思います。

◎座長

学力向上は、まずは学校ですが、地域で様々な形で多角的に子どもたちを見ることはできないでしょうか。スクールガードの皆さんが、放課後子どもたちと関わっていることも一つの例です。子どもたちの宿題をみたり、学校の様子を聞いたり、異年齢の方々と遊びなどを通して交流をもつような、子どもの居場所作りなどはいかがでしょうか。市内にもいくつかありますが、ボランティアのため毎日というわけにもいきません。行政的に募集してモデル的に行なうことも必要だと思います。ご意見のように、様々な家庭があるため、一律というわけにはいきませんが、このような地域で支えることを問題提起として出していただければと思います。

○委員

実現可能かどうかは分かりませんが、学校の図書室を利用して、子どもの勉強時間を確保するなどはどうでしょうか。集団下校をするような帰り道が不安な地域は難しいかもしれませんが。本を読む子どもは比較的勉強にも前向きという資料を見たことがあります。図書室にいれば、普段本に触れていない子どもも、ちょっと息抜きに本を手にするチャンスができ、そこから様々なことに興味が広がる可能性があります。私の息子も家では2時間でも3時間でもぼーっとしているので、「図書館に行って勉強しておいで」というと、勉強もしながら必ず本を借りて帰ってきます。図書室の利用を考えてはどうでしょうか。

◎座長

すぐに実現できるかどうかは別にして、図書室の利用も一つの策だと思います。安全の問題もあり、放課後の支援については連絡を十分にするなどの配慮が必要になると思います。家庭で学習習慣を身に付けることが難しい子どもたちに、居場所を提供するという点についていかがでしょうか。

○委員

子どもが放課後にどのような生活をしているかをきちんと把握できていないと思います。聞くところによると、中には忙しい子どもも多いようで、果たしてどれだけの利用があるかという思いがあります。学校には放課後児童クラブがありますが、その子どもたちが図書室をときどき学習の場として使っていると思います。

図書室を開放することで、子どもたちに居場所を提供できるなら、よいと思いますが、子どもたちが放課後にどのような生活をしているかが問題です。中には塾で忙しい子どもも多いと思います。昔のように、夏休みに蟬取りをしたり外で遊ぶ子どもをほとんど見ないという実態もあります。今の子どもたちは、一体どこにいらっしゃるのでしょうかと思います。

学校でも夏休みに図書室を開放しています。今年は昨年より多くの子どもが利用しました。特に夏休みの終わりに人気があり、友だちと誘い合わせて残った宿題を行なっています。その延長として放課後に図書室を開放すれば、何人かでも機会が増えることになると思います。安全面は別として居場所作りにはなると思います。

◎座長

子どもと連絡が取れなくなることは安全上問題のため、市としては、事前に居場所の情報を開示しておくことや、人員を配置しておくことが必要だと思いますが、図書室の開放は提案としては検討できるものだと思います。

○委員

他市では、地元の小学校が、夜間に体育館とグラウンド、図書室を開放しているところもあります。小学生だけでなく地域住民も利用できるため、図書室には一般的な本も置いているようです。そのような例もあります。

○委員

前回にも申し上げましたが、特定の学校ではなく、放課後や休みのときに、生涯学習センターの1室に、先生やOBによるボランティアを配置して、幅広い地域から希望者に来てもらって個別の補習を行なうというのはどうでしょうか。特定の学校となるとバラツキがあり、少人数では対応しにくいと思います。一堂に会することで、他の学校の子どもの交流も自然にできると思います。やり方は難しいかもしれませんが、一つの方法として考えられると思います。

○委員

多種目のスポーツを楽しみ、多世代の方と交流を広めるスポーツクラブ 21 に、多くの方が参加していますが、このようなことが学習面でできればと思います。

○委員

確かに、スポーツクラブ 21 には幅広い年代の方が参加しています。様々な校区の方が多く参加して、地域の子どもの昔遊びなどを教えています。学習面で行なうことは難しいかもしれませんが、大人も教え方を教えてもらって地域で学習面を支えることもよ

いのではないかと思います。反面、どのような子どもが来てくれるかという思いもあります。来てほしい子どもに来てもらえるようになればよいと思います。

○委員

退職した教員から、「夢物語のような話だが」ということで聞いたことがあります。小学校が廃校になった場合、都会では土地は利用法がありますが、田舎では空き校舎の利用は一つの課題となります。教員が退職後に集まって、廃校の校舎を借りて放課後に勉強を教えたり、保護者や子どもたちの相談に乗るような施設として使えればよいという話でした。クリアすべきことは多いですが、退職後の教員が子どもたちの勉強面や精神面を支える居場所で貢献することもよいと思います。

◎座長

来てほしい子どもが来てくれるかという問題もありますが、理想は、子どもたちが行きやすい身近な場所に居場所が常時あることです。イメージを作るために、どこかでモデル的に集中的に子どもたちの居場所作りを行なうことが望ましいと思われるため、市でさらに検討できればと思います。多くの子どもが利用できる場所があるのもうれしいことであり、広がりのある提案だと思いますが、他の委員の方はいかがですか。

○委員

学校などを利用して場所の提供はできるとしても、子どもたちが来てくれるかという問題があると思います。子どもたちが興味をもつようなもの、こういうことがやりたいということに対して、詳しい知識をもつ地域の高齢者が教えるなどができればと思います。地元の祭りでは、小中学生も夜7時から9時までの練習に熱心に参加するなど、自分が興味をもつものであれば喜んで参加します。子どもは興味をもてば参加するし、身に付くスピードも速いと思います。

◎座長

地域のつながりの中で子どもたちが活動するのは、意欲や上達にも良い影響を与え、先輩から様々なことを教えてもらうことで異年齢のつながりもできてよいと思います。子どもの参加を促すには、最初は教員からの働きかけや、家庭からの後押しが必要だと思います。全てを教えるような時間は取れませんが、このような場で、子どもたちが「分かった」と実感できるような体験を積み重ねることができればと思います。

せっかく明石の先生方が苦勞して作った明石版ドリルを地域の学校に配布していますので、自分の力に合ったところを学習するなどで、活用すればよいと思います。できたものがあるため、子どもに提供するのには、退職教員だけでなく様々な方が関わってほしいと思います。中学生に対しては難しいかもしれませんが、小学生に対して基本的なものを地域で支えてはどうかと思います。

本日のご意見を元に、事務局で検討いただきたいと思います。

②学力テストについて

◎座長

子どもたちの学力状況をつかむために、全国で実施する学力テストはありますが、市独自でも状況をつかむために必要だというご意見を皆様からいただいています。実際に実施するとすると、もっと具体的な内容について議論が必要です。

「よりよい明石の教育に向けて」【あかし教育懇話会 第4回会議資料】の2～3頁で、「特に留意すべき点」をまとめていますので、事務局から説明をお願いします。

●事務局

2頁をご覧ください。前回の会議で、学力テストは効果があるため実施すべきであるという大方のご意見をいただきました。実施にあたって留意すべき点として出されたご意見を教育委員会に報告したいと思っています。合わせて学力テストの課題についても報告しますので、この点についてもご意見をいただきたいと思います。

本日、特にご意見をいただきたい点が2点あります。

1つ目は、学力テスト実施にかかる負担軽減と体制づくりを考える必要があるということです。新しい学習指導要領では授業数も増えているうえに様々な問題があり、学校現場では教員の負担が増えています。そのような中で、学力テストを実施するためには、どのような負担軽減があるかについて、ご意見をいただきたいと思います。

2つ目は、結果の公表に対する考え方の整理です。学力テストは学習状況を把握し、分析して、その改善を図ることが本来の目的ですが、一方では、予算を使って実施する以上、市民への説明責任があり、ある程度の結果公表が必要です。先日泉佐野市が学力テストの結果を学校別にすべて公表することがニュースで取り上げられていましたが、公表には様々な影響があると思います。結果の公表について、ご意見をいただきたいと思います。

3頁は、事務局や教育委員会で検討すべき事項です。実施方法としては、すべての学校で実施するのか、抽出によるのか、実施時期は何時がよいのか、学年、教科、問題作成や採点、集計・分析はどのような形で誰がするのか、公表はどうするのかという項目を解決したうえで実施すべきだと考えています。

本日は、2頁の2点について皆様のご意見をいただきたいと思います。

◎座長

2頁について、留意すべき点、課題などのご意見ををお願いします。「独自の」という観点からは、まず問題作成や採点などが思い浮かびますが。

○委員

教員の負担軽減についてです。出題については、生徒に対する愛情を込めるという意味で、できるだけ現場の教員に作成していただきたいと思います。採点については、教員のOBや、その他のボランティアの方に対応していただくことで、かなり軽減できると思います。出題の仕方によって採点に影響があると思いますので、問題の出し方、配点に配慮が必要だと思います。

結果の公表は非常に難しい問題で、賛否は分かれると思います。私はせつかなので、

よい方法を考えて、何らかの形で結果を知らせることが望ましいと思います。人によって意見は分かれると思いますので、例えばアンケートをとってはどうかと思います。

3頁に関係しますが、実施時期には3つの観点があると思います。1つは開始時期をいつにするか、国のテストとの関係をどうするか、2つ目は頻度として毎年か隔年か、費用と効果を考えると隔年でもよいのか、3つ目が実施する時期です。西宮市は4月、神戸市は10月と、実施時期が異なります。特に3年生を考えると3学期はふさわしくないと思いますが、あまり早い時期になると、実質として前年度の学習効果を見るものになってしまいます。

3頁には難しい問題が多く掲げられていますので、いきなり独自のテストを来年や再来年に実施するのではなく、2段階方式で行なってはどうでしょうか。いきなり固めて取り返しのつかないことになっては困りますので、何年間か検討期間を置くことも重要です。最初は本格化へのつなぎとして業者テストで実施するのもよいと思います。

◎座長

まずは、2頁の一つ目「問題作成、採点、結果分析等にかかる負担の軽減、体制・システムづくり」についてご意見をいただけたらと思います。

○委員

私も似たような考え方なのですが、独自のものを作成する前に、全国の調査を使ってやってみるのがよいと思います。他市も多くの金額を使っていると思います。いきなり作成にかかるより、あるものを使うことで、様々な問題点や改善点も見えてくると思います。全国の学力調査を毎年興味をもって見っていますが、基礎的な知識から思考力を問うものまでよく考えられた良い問題だという感想をもっています。これを活用することで、問題作成の負担は軽減できると思います。

公表については、すぐ市民に知らせるというふうにシビアに考えなくても、次の段階で検討すればよいと思います。

中学で英語がないのは問題ではないかと感じました。理科が以前はやっていたのに、なくなったりするようですが、やったりやらなかったりというのはよくないと思います。毎年同じ教科でやり続けていくことがよいと思います。

○委員

明石市や大阪、奈良の知人と学力テストについて話すと、「自分の子どもの位置がよく分からない」ということが共通点です。特に中学生になると高校受験も控えているため、同じ区域の子どもが全員受けなければ、子どもの位置について判断が難しくなります。全体が同じように受けることに意味があると思います。

○委員

今を把握するためのテストであり、現状を受けて、次にどうするかということにつながる必要があると思います。点数が低い学校には加配の教員を配置するなど考えてはどうかと思います。

何のために実施するかを考えれば、学校ごとの公表は不要だと思います。本来の狙いから外れることはしなくてもよいと思います。自分の位置を知ることは必要ですが、すべて公表しなくても、全市での平均だけでよいと思います。

○委員

全国的なテストを取り入れることで、明石市の子どもが全国の中でどのレベルにあるのかが、本人も認識できるし、市の教育委員会や学校も認識できます。有効な資源として取り入れればよいのではないのでしょうか。

公表の仕方がありますが、基本的に公表はすべきだと思います。保護者にとっても、家庭の教育の仕方に影響を及ぼしますし、学校現場での反省にもつながると思います。説明責任もありますので公表はすべきですが、その方法は十分考慮する必要があると思います。

○委員

自分の学校の現状を知って、そこから実際の授業に反映することが大事だと思います。今の明石の子どもの学力を知るうえでは、全国で実施している部分を参考にすることも必要だと思います。抽出された学校で実施していますが、それ以外の学校もそこからスタートすることがよいと思います。テストをすることによって、その結果から授業の改善につなげ、少しずつ学力の底上げにつながると思います。「このテストをすると、この学力につながる」、「子どもが分かっていない部分を授業としてどのように変えていくか」ということにつなげていく必要があります。

公表は難しいため、方法を考える必要があると思います。

○委員

先週の金曜に山中教授の講演会を聞きにいきましたが、ユーモアたっぷりで5分に1回笑わせてくれるような面白いお話でした。その中に、中学校、高校時代のエピソードもありました。当時、先生から「テストは空欄にしてはいけない」と教えられていたそうで、生物の「雄と雌の両方の特徴があるものは何か」という問題に対して、「雌雄同体」という答えが出てこなかった友だちは、一生懸命考えた末に「おかま」と書いたそうです。しかし、先生は「テストは空欄にしてはいけない」という教えを受けて、子どもが一生懸命考えたことを評価して、×にはしなかったそうです。前回の明石市の学力調査では、空欄が多かったという指摘をもらいました。その課題に対してどう取り組むかがわれわれの課題です。このような課題が明確になる全国の学力調査を活用すべきだと思います。

私は明石独自の学力調査よりもまずは、明石市のすべての学校が全国学力調査を実施することが大事だと思います。全国の学力調査が抽出校で実施されたとしても、全校で実施し、結果から課題を見つけ、対応することが必要だと思います。

○委員

全国か明石独自かの二者択一ではなく、全国の学力調査を最大限活用し、部分的に、また隔年で独自のものを試行していくこともよいと思います。その理由は、全国のものだけでは、学習進度などが明石の子どもにマッチしていない可能性も考えられるため、明石の子どもに合ったものを作る必要があると思うからです。もう一つ、先生方の力になるからです。多くの子どもが受けるテストを責任をもって作ることで、大きな力を蓄えることができます。各教科の先生の協力が必要で負担もありますが、採点については、OBなどの活用もあると思います。基本的には全国のものを活用してもよいと思いますが、二者択一ではなく、なんらかの形で独自のものを考えるべきだと思います。

3頁については、実施方法は悉皆であるべきだと思います。実施学年は可能な限り多くの学年として、中学校は全学年、小学校は高学年がよいと思います。

公表はすべきだと思います。スポーツでは当然のことで、小学校、中学校、高校でも「あそこの学校は野球が強い」などがオープンになっています。なぜ勉強では同じようなことがないのかと思います。学校としても適切な競争をもつべきであり、個人の成績は個人に返すことによって、適切な競争につなげる必要があると思います。公表も可能な限りすべきだと思います。

○委員

テスト結果を分析して、その後の対処につなげることはよいと思いますが、教員も忙しく19時、20時まで残業し、臨時雇用も行なっている状況です。

スポーツは結果がストレートに出て、それによってもっと頑張ろうという気持ちが生まれます。私の時代は、試験のたびに結果が廊下に貼り出されていました。今、子どもに求められているのは、心の強さだと思います。

○委員

大切なのは、結果をどのように授業に反映するか、子どもとどのように向き合っていくかということです。教員の負担を軽減するためにも、教員にはその一番大事なところで力を注いでもらうのがよいと思います。

○委員

「教員の負担軽減」は大切だと思います。できるだけ現役の教員に負担がかからないよう、毎年、多くの校長や教員が定年退職されますが、そのような方々に協力を仰いではどうかと思います。

企業でいうと、業績の結果はトップの責任です。かねてよりなぜ学校には責任がないのかと思っていました。結果の公表はあってもよいと思いますが、もし公表が難しければ、各学校の校長宛には市内の順位などを情報提供すればよいと思います。それによって、「次回は何位以内を目指そう」という教育方針を出すことができますし、それが校長や教員の責任だと思います。現状では、その情報がまったくありません。教育委員会からの指示を聞いてやっても良し悪しの判断ができません。企業の経営者は、株主など周囲からの厳しい目の中で頑張っています。学校の校長や教員も、それくらいの気持ちをもって、自分の学校の子どもの学力向上に真剣に取り組んでいただきたいと思い

ます。

◎座長

基本は状況を把握して、子どもたちにどう反映していくかというP D C Aのサイクルをきちんと回すことだと思います。いずれにしても、結果の公表は求められることだと思いますので、その方法は今後も検討が必要だと思います。

問題作成が教員の力量につながるというのはその通りだと思います。ただし、毎年実施するとなると、毎年新たな問題を作るという負担が発生し、現実的にそれだけの時間をさけるかどうかという問題があります。この点を考えれば、全国学力調査の活用がよいというのが、皆様の大方のご意見です。

実施方法を悉皆とすれば、採点や集計は、それぞれで行なうことになります。市で予算化するなどの検討も必要です。明石の子どもに合った問題作成を行なうためには、独自で作成、採点、集計を行なうことが効果的ですが、それにかかる労力との問題になります。

○委員

私は、公表は、「市民に対する公表」と理解していましたが、公表はどこを対象にしたのでしょうか。学校現場は、当然自分の学校を含め、各学校の情報を知る必要があると思います。

●事務局

例えば、ある市では学力テストを行い、市全体の結果を公表しています。当然ながら各学校には、それぞれの結果を通知しており、学校の判断により保護者に公表しているものと思われます。その市のある中学校では、ホームページに「学校だより」として学校の成績結果を公表しているため、保護者だけでなく一般の人も見ることができます。

公表については、市民や学校、保護者など細かいところまで検討する必要があると思っており、その辺りのご意見をいただきたいと思います。

◎座長

前回、悉皆調査の時には、学校には、明石市全体と兵庫県、全国の結果、設問ごとの正答率は返しています。市内の各学校の個別の結果は教育委員までとしており、各学校には返していません。それを一般市民にまですべて公表するかどうかという問題になります。

○委員

各学校の校長くらいまでには返さなければ、学校同士の競争にならないと思います。個人情報のため、個人の成績を配るかどうかは別として、学校で保管し、希望者には知らせるという体制にしてはどうかと思います。

◎座長

個人の成績は、その子どもに返します。担任は自分の学級の結果は把握するようになっていきます。

○委員

各学校の校長や教員が、自分の学校の位置をきちんと認識すべきだと思います。保護者の立場を考えると、自分の子どもが通う学校の学力結果を知りたいと思いますので、一律にお知らせすべきだと思います。保護者の立場からみてどうですか。

○委員

公表によって悪い影響もあるかもしれませんが、結果が分かることによって、保護者も学校に関わろうとすると思います。自分の子どもに対する要望だけでなく、学校全体としての教員のあり方について要望が出てくるようになるのではないかと思います。

○委員

保護者としてもっとも関心があるのは、自分の子どもが全体の中で、どの位置にいるのかということです。保護者としては、学校の順位にはそれほど関心はありませんが、校長にも学校ごとの情報が知らされていないことに驚きました。

○委員

この場では、公表したほうがよいという意見が多く、私も個人的には賛成です。しかし、賛否両論あると思いますので、幅広い意見を聞くためにアンケート調査を実施して参考にしてはどうかと思います。

○委員

公表することによって、クラブ活動のように「この学校をやめてこっちの学校に行こう」という考えがでてくるのではないかと思います。私はできれば地域の学校に進んでほしいと思っているため、少し違う方向に向かってしまいそうな懸念があります。これは一般に対する公表をどのように行なうかに関わってくると思います。

◎座長

数字のもつ重さを考慮して、扱いについては十分考慮する必要があるというご意見、幅広くご意見を問うてはどうか、というご意見でした。

いずれにしても調査は実施し、まずは全国の学力調査に全体が参加できるような形でスタートするほうが始めやすいということです。自作となると来年からすぐというわけにはいきません。算数、数学、国語だけでなく、中学校では英語など、教科の幅を広げてはどうか、というご意見もありました。

多くの学校が参加しているようなテストを扱っている業者であれば、ある程度の全国比較もできると思います。ただし予算にも関係してくるため、本日のご意見を参考に事務局でも検討をお願いしたいと思います。

○委員

全国のテストを利用することはよいと思います。問題作成にあたっては検討委員会などの準備的なものを作って、問題作成がスタートできるような体制を作るべきではないかと思います。全国のテスト内容を検討し、明石市としてはどのようにしていくかを作っておくのがよいと思います。高校には、大学入試問題検討委員会というものがあり、各大学から入試問題を供出してもらい、科目ごとに検討しています。少なくともそのような活動をすべきだと思います。

◎座長

大きな問題提起をいただき、ありがとうございます。検討したいと思います。

○委員

本日の議論をお聞きしていて、まだ迷いがあり、「これしかない」という方向性が出ていません。国の実施する学力テストはバラツキがあります。過去に実施していても最終的に議論になるのは、「データを出さない」、「明石市の子どもの学力が分からない」という点であり、それが事の発端になっています。

国の学力テストにバラツキがあるため、明石市の学力を把握するためには明石市独自のやり方で、実施時期、科目、対象者を設定して行うのがよいと思います。問題作成については様々な意見がありますが、最初から100点にはなりません。モデル的にスタートして、1年間かけて問題点や苦勞する点を洗い出して検証を行い、2年後、3年後につなげていくというのがよいと思います。「これしかない」と無理に決めて行なわなくても、やりながら情報をとることもよいと思います。

公表については、皆様からこのようなご意見が出るとは思わなかったのが驚いています。逆の意見が出るのではと思っていました。私は個人的には現時点では、公表には反対のイメージを持っています。公表できる内容は、「明石市の子どもは、算数のこの系統の問題はできるが、この系統の問題はできていない」というものだと思います。学校ごとの「この問題はできた、できなかった」という情報は、現時点では必要ないと思います。

子どもが3年、5年と安定的にテストを受けることによって、目標をもってしっかり取り組む状況になったときに初めて、学校から公表すればよいと思います。現時点では、未成熟のため、あくまでも学力の強いところ、弱いところを把握するためのテストを行なうことが基本だと思います。公表は難しいと思います。

絶対評価の結果は、当然学校や担任は知っておく必要がありますし、子ども一人一人に返す必要があると思いますが、相対的な結果を外に向かって公表するのは現時点では、時期尚早だと思います。

子どもは自分の行く中学校が成績が低いからといって、違う中学校を選ぶことはできません。今のシステムの中では、義務教育である中学校には、高校のようにランキングが明らかになる状況は必要ないと思います。それよりも、スタートとしては、弱いところをもっている子どもを上げてやり、得意なところがみつかった子どもはもっと伸ばすということに主眼が置かれるテストのほうがよいと思います。

学校で問題を作り、採点して集計して評価まですべて行なうのはかなりの負担です。業者は、ある分野の傾向を知るためにはどのような問題を出題すればよいか、というノウハウをもっているため、委託もよいのではと思います。すべて自前でやるには時間もなく、問題点も多いと思います。

○委員

委託するとしても、完全に丸投げするのではなく、教育委員会のガイドラインを提示したり、教員がメンバーとして加わって協議しながら一緒に作っていくことはできるのですか。

○委員

委託のやり方をこちらで決めて、指示して行なえばよいと思います。

○委員

全国一斉のものを使う、業者に丸投げするとか、教員で全面的に作るといった0か1の選択ではなく、その中間を考えなければならないと思います。今年からすぐに実施することが無理であれば、準備期間を設けて委員会などを開催して、グレーから白になるようにだんだん整えていくような上手いやり方があるのではないかと思います。

◎座長

実際に、全国規模でテストを専門に行なっている業者や出版社がいくつかありますが、市が入って一緒に問題作成を行なうという例はあまり聞きません。今後、条件を出しながら一緒に問題作成していくことは、視点として大事なもので、今後の検討になると思います。

○委員

テストは、子どもの学力を上げるためのものであって、学校間の格差をみるものではないということは、皆の共通理解だと思います。まずは、この点を確認しておきたいと思います。

現場の教員の現状として、日々の授業の小テスト、中間テスト、期末テスト、実力テストなど、膨大な量のテストを作っています。その上、さらにテストを作るとなると、過酷な状況になると思います。新しいものを作るより、現状を押さえてからいろいろなことを進めていくのがよいと思います。

明石市だけのテストだと「井の中の蛙」になりやすくなるため、県の中でどうかという、県レベルで物をみななければならないと思います。県もいずれは全県学区にしようとしているため、そのような視野をもちながら学力テストを活用すべきだと思います。

「百ます計算」は、なぜあれほどヒットしたと思われるのでしょうか。あれは朝来市の陰山先生が開発してスタートしたものです。年に1回、朝来市に仕事で行くことがあるのですが、「陰山先生はすごいですね」と言うと、地元の方は「そうではなく、家庭がすごい。お母さんやお父さんが一生懸命で、「百ます計算」を親子で必死でやっていま

す」と言います。学校と家庭が一体にならなければ学力は上がりません。特に学ぶ習慣や学習に対する意識付けや意欲は、低学年のうちにきちんと身に付けてさせてあげるべきです。このような点を、ぜひ教育の柱にしていきたいと思います。

◎座長

学校だけでなく家庭も一緒にとすることは非常に大事なことです。この点は元々あかし教育プランにも出していることでもあり、これをどのように作り出していくかは、行政の一つの課題だと思います。学校や家庭など全体でつながりをもちながら、また小中や中高でどのようにつながりを生み出していくかが重要だと思います。子どもが、「今までと違う」と切り替えてステップアップできる部分と、極端な変化に対応しきれない部分がありますので、学校間や、学校と地域、家庭のつながりは大切です。

本日のご意見を元に、事務局、教育委員会で検討いただきたいと思います。

③教育環境の整備について

◎座長

教育環境の整備の中で、特に学校規模について説明をお願いします。

●事務局

「よりよい明石の教育に向けて」【あかし教育懇話会 第4回会議資料】の4頁をご覧ください。「教育環境の整備」として現在の課題等をまとめています。人口減少社会、少子高齢化社会の進展の中で、学校規模の適正化が大きな課題になっています。また、教育環境の中では、それ以外にも学校施設の整備として、耐震化、老朽化などのハード面の整備も必要であり、習熟度別・少人数指導のためには、それなりの教員の適正配置が必要です。現在国も進めている少人数学級を背景とした35人学級、安全・安心の取組も課題です。中長期的に将来を見据えた場合、学校規模の適正化は、今後の大きな課題になります。

続いて5頁をご覧ください。文科省では学校規模について、「学校教育法施行規則」により、「小・中学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする」と定めています。ただし、「地域の実態等によりこの限りではない」ということで、今後例えば、統合する場合は、表中に「統合の場合の適正規模」とあるように、もう少し多い24学級までは適正規模であると定めています。明石市の小中学校の現状は、小学校では1～5学級の過小規模はありません。6～11学級の小規模学校は、現在大観小学校の1校で11学級、一番小さな小学校になっています。適正規模は17校、統合も含めた場合は6校です。大規模は2校でそれぞれ29学級、過大規模は大久保、大久保南がそれぞれ35学級、33学級です。

中学校も、過小規模はなく、小規模学校は錦城と高丘の2校です。この2校はかなり状況が異なっており、錦城は6学級で小規模学校の中でももっとも小さい学校、高丘は11学級で小規模学校の中でももっとも大きな学校となっています。適正規模は6校、統合も含めた場合は3校です。大規模は2校で、大久保が28学級、二見が26学級です。

また適正な学校規模と関連して、適正な通学距離の基準があり、「小学校にあっては

おおむね4Km以内、中学校にあってはおおむね6Km以内」と定められています。明石市では、もっとも遠い通学距離は、小学校では藤江小学校の2.40Km、中学校では魚住中学校の3.08Kmと、おおむね適正な通学距離の基準にあてはまっています。

6～7頁には小規模校、大規模校のメリット、デメリットを、学習面、生活面、学校運営面・財政面、その他について、一般的に言われているものを整理しています。これについては、次回以降に議論いただきたいと思います。

8頁は、「学校規模の適正化に向けた施策」として、学校規模を適正化するためには、どのような施策があるかを、現在考えられるものを中心に挙げています。一つ目は、通学区域の変更です。続いて、調整区域の設置で、指定校か調整校のいずれかが選択できる特定区域を定めることです。学校の統廃合は、主に小規模校をなくすための施策で、小規模校を廃校し、隣接する学校に統廃合するものです。本懇話会になる前の教育会議のときに資料として提示したことがある学校選択性が、現在文科省で進められています。現在、教育委員会が就学を指定していますが、法制上は指定の変更ができるようになっています。その指定変更を運用して、既にいくつかの市町村で学校選択性が行なわれています。選択の中には、自由選択制、ブロック選択制、隣接区域選択制、特認校制、特定地域選択制などがあります。これについても次回以降、学校選択性を採用する場合、どのような方法がよいかについて議論いただきたいと思います。

9頁は、「学校規模の今後の動向（将来推計）」です。平成22年度時点で、小学校は541学級、16,676人ですが、30年後の平成52年度時点には、342学級、9,088人という予測がなされています。中学校は平成22年度時点で、227学級、8,253人ですが、30年後の平成52年度時点には、126学級、4,242人となっています。推計のため、実際の数値は変わってくると思いますが、子どもが減少して学級が少なくなり、学校規模がどんどん小さくなることは変わらないと考えています。

10頁は、「学校規模別小中学校の将来推計」です。11頁以降は、参考資料で「学校規模の標準に関する規定等」、「明石市小中学校の建築年度、改修状況等」、「全国、兵庫県、明石市の将来推計人口」、「明石市小中学校における児童生徒数の将来推計値」です。ご参照いただければと思います。説明は以上です。

◎座長

多くの資料がありますので大まかな説明になったと思いますが、後で詳細をご覧ください、次回ご意見をいただければと思います。

学校規模適正化の中には、特別支援学級は含まれていません。特別支援学級は数名で1クラスとなっています。

5頁の適正規模の12～18学級は、法で定められていますが、政令市、中核市と、明石市のような特例市では、12～24学級としているところが大部分のようです。将来推計は児童生徒数で表しているため、学級数に結びつきにくいですが、今後は大幅な減少になると思われます。学校数によって、そこに割り当てる予算枠も変わるなど、様々な影響もあると思います。今後の議論の中で、このような将来的な視野も含めていただければと思います。

それでは、本日はこれで議事を終了します。

3. 閉会

●事務局

本日は長時間に渡り活発な議論をいただきありがとうございました。

次回第5回の懇話会は10月30日（火）16時から、議会棟第2委員会室で予定しておりますので、よろしくお願いいいたします。正式な開催通知は改めてご連絡いたします。本日、第3回の会議録を配布していますが、ご確認のうえ、10月23日（火）までに修正等がありましたら、ご連絡をいただきたいと思います。その後ホームページに掲載いたします。

これで、第4回あかし教育懇話会を終了いたします。ありがとうございました。

以上